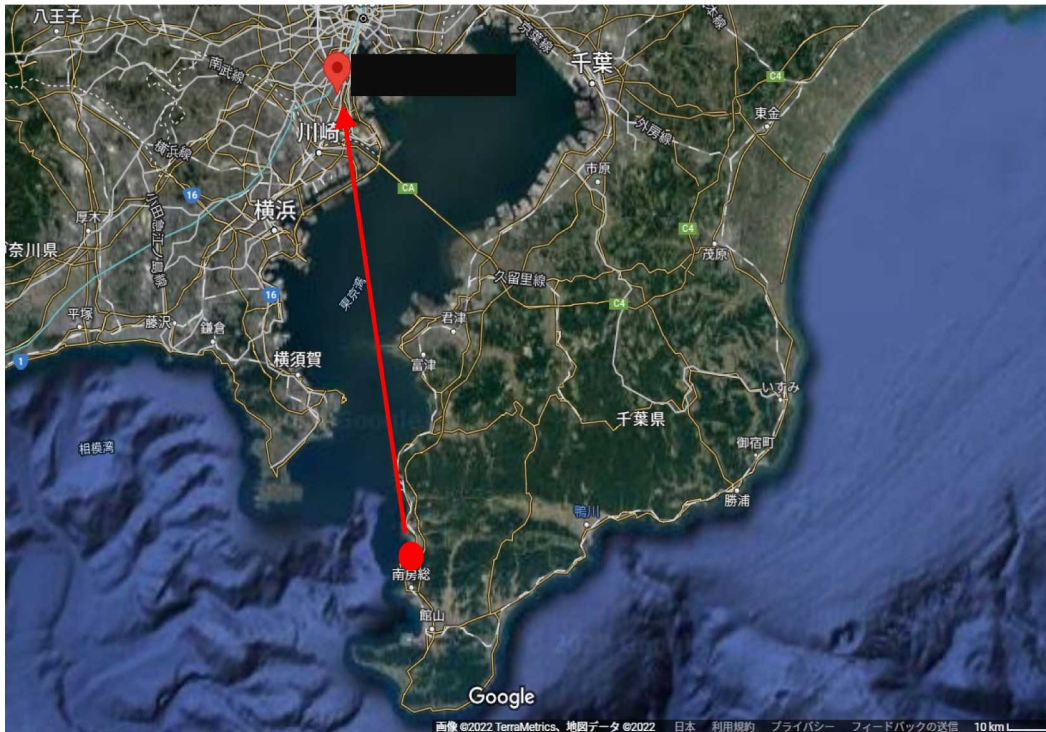


古民家移築事例

南房総→都内

細谷匠建築設計事務所



本計画は南房総の古民家（江戸～大正時代）の古民家を、東京都内（山手線の内側）に移築したプロジェクトである。

東京都内の山手線内側は防火規制が厳しく、古民家の骨組（木造）のみでは建設する事が不可能な地域で、木部の表面を耐火性能の有るボードで被覆する必要がある。

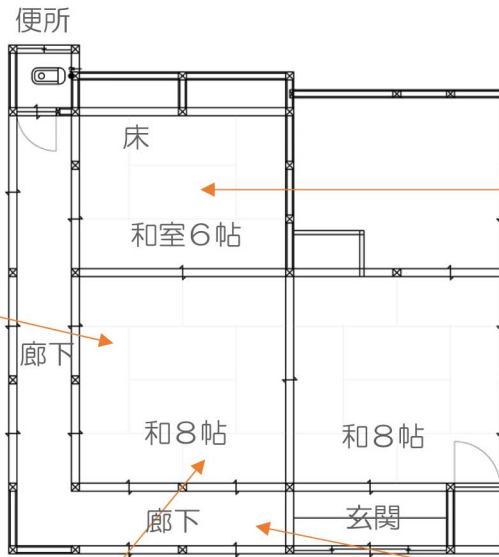
古民家は古材の柱梁を露出してこそその建物なので、これでは移築する意味が無い。

通常では諦めるところであるが、これまで培った50年のノウハウを活かし、古民家部分を装飾としてとらえ、防火構造の建物で覆う事で、古民家部分は古い柱梁のまま、オーナーのニーズを実現する事が可能となった。

わが国で初めての事例をご紹介します。



移築前の既存建物外観



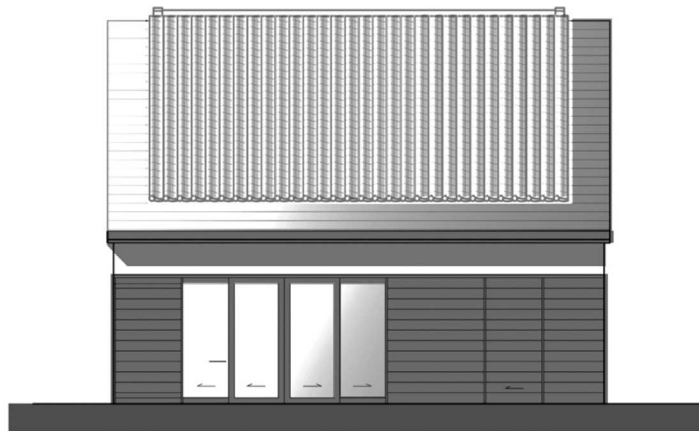
典型的な古民家の
の平面形式。

4間建て、（田
の字形式）に廊
下を廻し、北西
の角にトイレを
設けている。
和室の天井を剥
すと見事な梁が
現れた。

移築前の既存建物

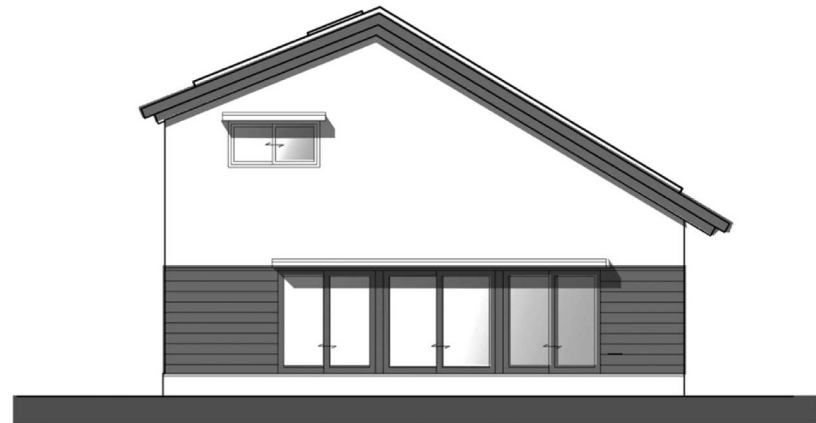


古民家のイメージを残した立面



又 リ チ ト へ ホ ニ ハ ロ イ

北立面図



① ② ③ ④ ⑤ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

東立面図



最初に古民家の部分を組み立てて



古民家の周囲を防火構造の壁、屋根で囲む



最初に古民家
部分を組み立
てて

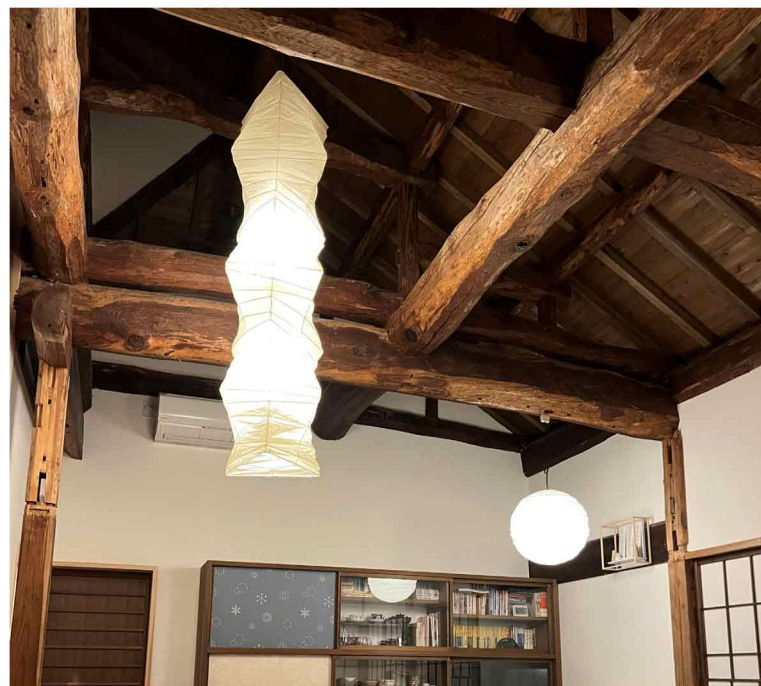


組みあがった古民家の
小屋組。



組みあがった移築
古民家部分をブ
ルーシートで囲み
養生

防火構造部分。
この木材の柱、梁
の外側に防火性能
の有る材料を貼る。



竣工後の内観 居間吹き抜け
柱、梁は昔のまま使用し、空間を再現



2Fから見る
居間小屋組